

令和5年度スーパーサイエンスハイスクール事業 理数セミナーのお知らせ

食は人類の進化に寄与し、
そして健康維持に貢献している
～食の重要性とは～

日時 | 令和5年6月3日(土)

午後2時から午後4時まで

会場 | 本校1階多目的ホール (予定)

対象 | 高校生・中学生

講師 | 東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授
佐藤 隆一郎 先生(富士高卒業生)



講演概要

皆さんは1日3度の食事を口にします。皆さんが高齢者になる頃には平均寿命が100歳近くになり、人生100年の間におよそ10万回食事を摂ることになります。栄養バランスの偏った食事を摂れば様々な病気を発症しやすくなり、高齢時には介護が必要となる確率も高まります。健康で実り豊かな人生を送るには、若い頃から食事内容に気を配る必要があります。ヒトはおよそ600万年前にチンパンジー・ボノボから枝分かれして進化してきました。その間に脳の容積を3倍以上増大させ、やがて農業生産を開始し、自らの食料を確保することに成功しました。脳は膨大なエネルギーを消費する組織ですので、脳の容積を大きくするためには十分な栄養を食べ物から得る必要があります。それでは我々の祖先はどのようにして食べ物から効率よくエネルギーを得ることに成功したのでしょうか？そして脳を巨大化させたからこそ、自ら農業生産を介して食べ物を生産する技術まで獲得することができました。さらには言語能力を獲得して、固有の文化・文明を発展させました。食の恩恵がなくして進化も健康も達成できないことに、今一度気づき、その重要性を知る機会になることを願っています。食べ物は大事です。

講師紹介

1956年東京杉並区に生まれる。区立小学校・中学校を経て、都立富士高校に。一年時はハンドボール部、二年時は管弦楽部、二年から三年時に陸上部と長続きしない部活歴あり。東大農学部、大学院農学系研究科を経て、農学博士号取得。帝京大学薬学部・助手を4年間務めたのちに退職、米国テキサス大学へ留学。1985年ノーベル生理学・医学賞受賞者のDr. Goldstein、Dr. Brown先生が共同運営する分子遺伝学教室で4年間、先端研究に従事。帰国後、大阪大学薬学部・助教授を経て、東京大学大学院農学生命科学研究科・助教授。2004年より食品生化学研究室・教授。2022年退職。2022年4月より、社会連携講座「栄養・生命科学」の特任教授として研究・教育に従事。「健康寿命をのばす食べ物の科学」(ちくま新書)を2023年4月7日に上梓。しばらくは書店で立ち読みできます。



お問い合わせ：探究・SSH部 TEL 03-3382-0601